

第3回 枕崎市地域公共交通活性化協議会

〔地域公共交通計画（案）：基本方針～施策展開イメージ〕

1. 課題解決に向けた公共交通の基本方針	1
(1) 公共交通に求められる役割（概要）	1
(2) 地域公共交通の課題	1
(3) 課題解決に向けた公共交通の基本方針	1
2. 計画の目標（案）	2
3. 取組の方向性（案）	2
4. 施策展開イメージ（案）	3
(1) 施策展開イメージ（案）	3
(2) 施策展開イメージ図	3

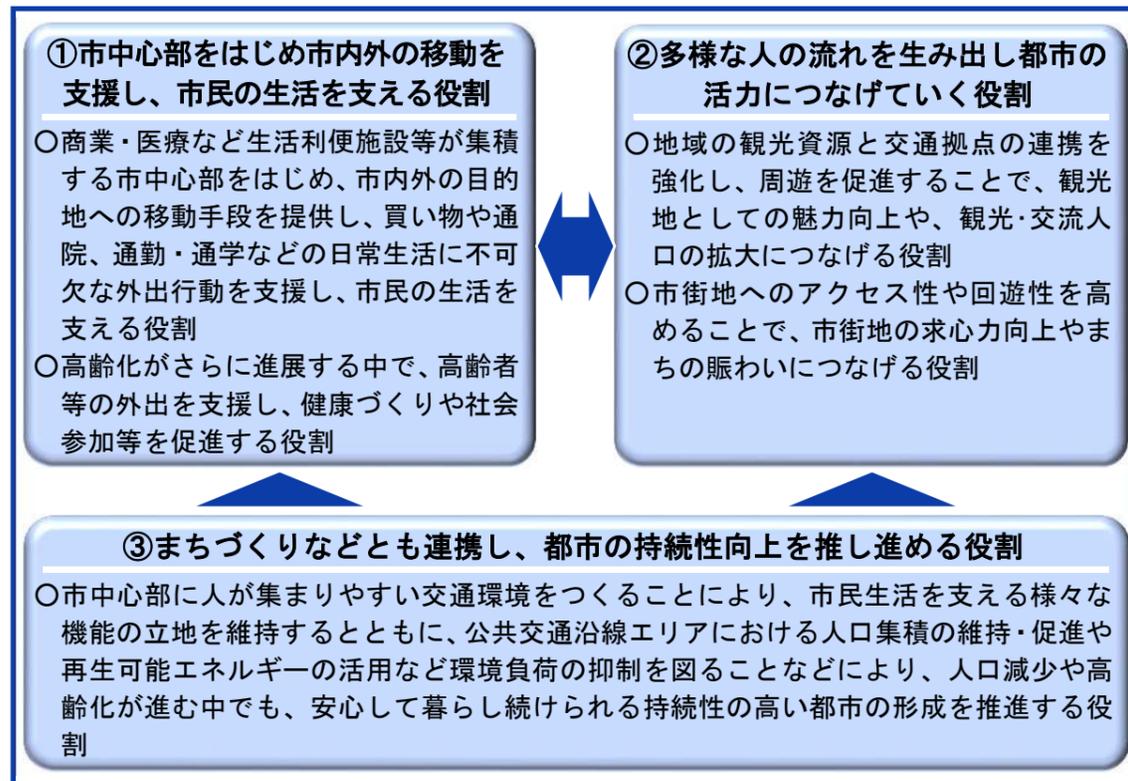
令和4年2月21日（月）

枕崎市地域公共交通活性化協議会 事務局

（枕崎市企画調整課）

1. 課題解決に向けた公共交通の基本方針

(1) 公共交通に求められる役割 (概要)



(2) 地域公共交通の課題

- 課題① 市民生活に必要な移動手段を確保・維持していくことが必要**
- 観光需要もうまく取り込みながら、市民生活の外出需要や特性・ニーズなどを踏まえ、引き続き市民生活に必要な移動手段を確保・維持していくことが必要です。
- 課題② 公共交通ネットワークの持続性を高めていくことが必要**
- 持続性の確保に向けては、公共交通の利用を促進していくことも重要になりますが、公共交通だけの取組には限界もあることから、まちづくりなどの関連分野と連携し、公共交通が「使われやすい環境」を整えていくことも重要になると考えられます。
- 課題③ 周辺市町と連携しながら一体的に取組を進めていくことが必要**
- 観光振興の面でも、枕崎市をはじめとする南薩地域の観光資源や交通環境を活かしながら、地域の魅力を一体的に高めていくことが重要になると考えられることから、周辺自治体と様々な分野で強く連携しながら取組を進めていくことが必要です。

(3) 課題解決に向けた公共交通の基本方針

- 基本方針①**
- 交通事業者や行政はもとより、地域や利用者等も含む多様な主体で支え合う公共交通**
- 幅広い年代で日常生活において自家用車が主流な移動手段になっているなか、高齢化の進行などにもとない、近年は日常生活における移動手段として公共交通の重要性が高まっています。
 - 一方、人口の減少・低密度化などにより事業環境は厳しさを増しており、交通事業者が主体となって事業を展開し、行政が補助金を交付し支援する現在の取組には限界があります。
 - このため、公共交通を社会基盤（インフラストラクチャー）として認識し、主体的・積極的に利用していく市民意識の醸成や、地域が主体となった取組、商業・医療・観光施設等といった多様な主体との連携等により支え合う公共交通を目指します。
- 基本方針②**
- 様々な移動サービスの重層的組み合わせによる持続性の高い公共交通**
- 少子高齢化などを背景として、高齢者の買い物・通院や児童・生徒の通学などの移動手段の確保が引き続き重要となっているなか、利用が低迷する路線が見られます。
 - 一方、中山間をはじめ市街地内やその周辺においても至近に公共交通がない地域（公共交通空白地域）、及び通勤・通学や買い物、通院時における便数が少ない地域（公共交通不便地域）が存在しています。
 - 人口の減少・低密度化の傾向などを踏まえると、市域全体に画一的な移動サービスを提供することが困難な状況に反して、高齢化を背景に、よりきめ細かな移動サービスのニーズが高まっています。
 - このため、需要や移動特性などに応じて運行頻度、車両サイズ、運行形態等の適正化を図りつつ、既存の交通資源（タクシー、各種送迎サービス等）の有効活用はもちろんのこと、新たな移動サービスの導入なども視野に入れ、それら様々な移動サービスの役割を明確にし「適材適所」かつ「重層的」に組み合わせることで、ニーズに応じた持続性の高い公共交通を目指します。
 - また、移動サービス相互の連携（乗り継ぎ環境、ダイヤ、運賃、情報提供、利用促進等）を強化することで、“一体的なネットワーク”として機能する公共交通を目指します。
- 基本方針③**
- 福祉や観光等の関連分野との連携による、「社会基盤」として機能する公共交通**
- 公共交通には単に現状の移動ニーズに対応するだけでなく、関連分野における取組を“下支え”する役割が求められています。
 - 例えば、福祉分野における「高齢者等の外出機会・社会参加機会の確保」、まちづくりにおける「快適で便利なコンパクトなまちづくり」や、観光分野におけるアクセス面からの「観光地の魅力向上」、環境分野における「循環型・脱炭素型の暮らしの定着」などを支援する役割が期待されます。
 - このため、福祉や教育、まちづくり、観光、環境などの関連分野と連携しながら、「社会基盤」として機能する公共交通を目指します。また、こうした取組により公共交通が「利用しやすい環境」をつくり、公共交通の持続性向上にもつなげていきます。
- 基本方針④**
- 近隣自治体との連携による、市民や来訪者等の移動・広域周遊を支える公共交通**
- 日常の買い物や通院の目的地は概ね市内が中心となっていますが、通勤では市内居住者の約2割が、通学では市内居住者の半数近くが市外へ流出しているなど、市民生活が市内では完結しない状況となっています。また、市内の路線バスの多くは近隣自治体間を結ぶ広域路線である一方、市内の移動手段としても重要な役割を担っています。
 - 本市を含む南薩地域は、枕崎駅をはじめ様々な観光資源を有しており、近隣自治体との連携により、地域の魅力を一体的に高め、広域の観光周遊を促進することが期待されます。
 - そのため、広域路線の需要の集約や新たな需要の掘り起こし（ニーズへの対応、市内移動サービスとの連携等）などを図りつつ、引き続き、広域路線を維持していくことで、近隣自治体間や市内の移動・周遊を支える公共交通を目指します。

2. 計画の目標（案）

目標①	<p>多様な主体が参画することで公共交通を支える仕組みをつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 交通事業者・行政・公共交通利用者に加えて、地域住民や公共交通利用の目的地となる各種施設等（商業・医療・観光地など）なども広く巻き込むことで、多様な主体が様々な形で公共交通の運営を支える仕組みをつくります。 <p>達成状況 評価指標</p> <p style="text-align: center;">※検討中</p>
目標②	<p>コストバランスの最適化を図りながら移動サービスの「網羅性」を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 交通結節機能の向上により連携を強化しつつ、新たな移動サービスも含めた各種移動サービスの重層化・発展的解消や、需要に応じた運行形態の変更等を図ることで、移動サービスの提供エリアを拡大し、コストバランスの最適化と「網羅性」を高めます。 <p>達成状況 評価指標</p> <p style="text-align: center;">※検討中</p>
目標③	<p>関連分野の取組と連携しながら、各分野の目標の達成を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 福祉や教育・まちづくり・観光・環境などの取組と連携しながら、公共交通サービスの維持・充実や、利用の促進を図っていくことにより、それぞれの分野で目指す目標の実現を支援します。 <p style="text-align: center;">〔関連分野との連携のイメージ〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【福祉分野】 高齢者の外出機会や社会参加機会の確保・拡大につながる移動サービスを提供することで、健康寿命を延伸 など</p> <p>【教育分野】 高校への通学手段となる広域路線を維持することで、将来的にも進学先の選択肢を確保（通学手段がないことで進学先が限定されることがないように） など</p> <p>【まちづくり】 居住地域内の移動利便性の維持・向上や、市街地のアクセス性・回遊性の確保により、快適で便利なコンパクトなまちづくりを推進 など</p> <p>【観光分野】 地域の主要観光地と公共交通の連携を強化し周遊を促進することで、観光誘客を促進 など</p> <p>【環境分野】 公共交通の利用促進や環境に配慮した車両導入などにより、交通分野全体の環境負荷を軽減 など</p> </div> <p>達成状況 評価指標</p> <p style="text-align: center;">※検討中</p>
目標④	<p>地域間の移動を支える広域路線の利用を促進し、「持続性」を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ネットワーク全体としての使いやすさ向上などにより、広域路線の利用を促進し、持続性を高めます。 ● JR 指宿枕崎線と路線バスの一体的な利用の促進などにより、広域的な移動利便性と持続性を高めます。 <p>達成状況 評価指標</p> <p style="text-align: center;">※検討中</p>

3. 取組の方向性（案）

〔取組の方向性（案）〕		〔目標との関連性〕			
		①	②	③	④
方向性①	<p>利用意識の醸成・利用喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 公共交通の重要性・必要性に対する市民の共通認識の形成や、公共交通を積極的に利用する意識の醸成を図るとともに、利用喚起に向けた取組を推進することで、“乗って支える”利用者層の拡大を図ります。 	○			○
方向性②	<p>多様な主体の連携による移動サービスの確保・利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 関連分野や多様な主体と連携した取組を展開することで、移動サービスの確保や公共交通の利用促進を図り、社会全体で公共交通を支える環境づくりを推進します。 	○		○	
方向性③	<p>移動サービスの重層化と相互の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 地域の交通資源を活用して、面的・時間的な移動サービスの重層化やサービス水準の適正化とあわせた網羅性の向上を推進するとともに、移動サービス相互の連携を強化することで一体的なネットワークとしての移動利便性と機能向上を図ります。 		○	○	○
方向性④	<p>公共交通に関する情報提供の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 公共交通や観光に関する分かりやすく・便利な情報提供を行うことを通じて、公共交通利用の敬遠につながる不安感や不便感を軽減・払拭するとともに、公共交通を利用した移動がイメージできる情報を示すことで、公共交通が使われやすい環境を整えます。 		○	○	○
方向性⑤	<p>市街地内の移動・回遊の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ コンパクトな市街地特性を活かしたまちづくりや観光・交流の促進に向けて、市街地内の移動や主要施設（行政・商業・交通・医療・観光等）間の回遊の利便性向上を図ります。 		○	○	

4. 施策展開イメージ（案）

（1）施策展開イメージ（案）

方向性 ①

①「社会基盤」としての公共交通に対する意識の醸成
 ・公共交通に関する継続的な情報発信を行うことなどを通じて、公共交通の「社会基盤」としての重要性・必要性に対する共通認識の形成を推進します。

②モビリティ・マネジメントの推進
 ・近隣自治体とも連携し、公共交通の乗り方教室や学校での公共交通学習をはじめとした「モビリティ・マネジメント」を展開することなどによる、公共交通を積極的に利用する意識の醸成を推進します。

③利用の“きっかけ”づくり
 ・「お試し乗車券」による運賃補助など、公共交通を利用する“きっかけ”となる取組による利用喚起を推進します。

方向性 ②

④イベント等との連携
 ・公共交通の運行ルートや運行ダイヤにあわせたイベント等の開催など、地域活動等との連携による利用促進を推進します。

⑤地域が主体となった運行の促進
 ・地域が主体となった「支え合い（共助）」による移動手段確保の取組に対する支援制度の導入を検討します。

⑥多様な主体が移動サービスを支える仕組みの導入
 ・公共交通利用の目的地となる各種施設が、施設利用者に対して公共交通運賃割引サービス等を実施するなど、多様な主体が公共交通を支える仕組みの構築を検討します。

⑦観光周遊促進策の展開
 ・周辺自治体とも連携し、広域的な観光キャンペーンの展開や、路線バス等の移動サービスと目的地となる施設のサービス等を組み合わせた企画乗車券・周遊型観光メニューの開発を推進します。

⑧ドライバー確保のための支援
 ・“担い手”不足が深刻化しつつある路線バスやその他移動サービスのドライバー確保のための支援を検討します。

方向性 ③

⑨路線バス枕崎～金山線の運行形態の見直し（図）
 ・路線バス枕崎・金山線については、周辺の公共交通空白地域等への対応も念頭に、需要に応じて運行する交通サービス（予約型乗合タクシー等）への転換を検討します。

⑩スクールバスを活用した移動手段の確保（図）
 ・桜山小学校のスクールバスを活用し、市民のスクールバスへの混乗化やバスの空き時間を活用した新たな運行ルートの追加などによる移動手段の確保を推進します。

⑪鉄道と路線バスの一体的利用の促進（図）
 ・JR 指宿枕崎線及び路線バス（東大川～枕崎線）の一体的利用を促進するための共通乗車券・共通定期券の導入を検討します。

⑫公共交通空白地域・不便地域における新たな移動サービスの提供（図）
 ・人口が広く・薄く分布する地域や、一定の人口集積がみられる市街地およびその外縁に存在する公共交通空白地域・不便地域において、市民生活を支える新たな移動サービス（予約型乗合タクシー、乗用タクシーの運賃低廉化等）の導入を推進します。

⑬乗り継ぎ環境の整備（図）
 ・主要なバス停において、利用者や街並み景観に配慮した待合設備の設置を推進します。また、新たな移動サービス（予約型乗合タクシー等）と路線バスの結節点における乗り継ぎ環境の整備、乗り継ぎダイヤの設定を検討します。

⑭次世代自動車の導入
 ・環境負荷低減への貢献や災害時の非常電源（避難所の電源等）としての活用が期待できる次世代自動車（EV タクシー等）の導入を推進します。

⑮新たな枠組みによる柔軟な移動手段の確保
 ・地域での“支え合い（互助）”による移動サービスや、乗用タクシーを活用した「定額制の移動サービス」など、新たな枠組みによる柔軟な移動手段の確保を検討します。

方向性 ④

⑯観光・公共交通情報の提供
 ・路線図や総合時刻表等を作成するとともに、アナログ・デジタルを活用した観光や公共交通に関する情報の発信を推進します。

⑰デジタルサイネージの導入（図）
 ・枕崎駅や観光案内所などにおいて、観光情報や路線図・時刻表・乗継情報などの情報を提供するデジタルサイネージの導入を推進します。

⑱リアルタイムな情報提供の実施
 ・公共交通の運行状況（車両走行位置・遅延状況・乗り換え検索等）がリアルタイムで分かる仕組みの導入を検討します。

方向性 ⑤

⑲市街地内を循環する新たな移動サービスの導入（図）
 ・市街地内を循環する新たな移動サービスとして、コンパクトな市街地特性に合致し、環境負荷低減への貢献も期待できるグリーンスローモビリティの導入を検討します。

⑳市街地内における均一運賃区間の設定（図）
 ・市街地内を循環する新たな移動サービスの導入を念頭に、市街地内における均一運賃区間の設定を検討します。

（2）施策展開イメージ図 ※図中の取組以外は市全体・広域で展開

